

- 「第22回 神戸景観・ポイント賞」決定！(P.1)
- 平成21年度 小学校総合学習「道の学校」私たちのまち探検(P.2)
- <震災15年特集>阪神・淡路大震災を語り継いで その2(P.3)
- 発信！まちセン研究ネット◎ ほか(P.4)

発行：神戸市立 こうべまちづくり会館

バックナンバーはこちら <http://www.kobe-toshi-seibi.or.jp/matisen/>

「第22回 神戸景観・ポイント賞」決定！

今年も神戸のまちの個性が光るポイントが選ばれました

神戸市では「デザイン都市・神戸」を推進する一環として、神戸らしい魅力ある景観やまちなみをまもり、そだて、つくる取り組みを進めています。

「神戸景観・ポイント賞」は、周辺の景観と調和しながらも個性を発揮し、まちの中でキラリと光る建築物やまちなみ、屋外広告物などを表彰することにより、市民や事業者の皆様の景観に対する理解と意識を高めていただくために、昭和61年度から実施してきました。今年度は、市民の皆様から推薦された92件の候補の中から、選考委員会の選考を経て、以下の5件が決定しましたので、ご紹介します。

神戸景観・ポイント賞

■神戸迎賓館須磨離宮（須磨区離宮西町2丁目）

～大正ロマンの香り漂う迎賓館の再生～

須磨離宮に隣接する風光明媚な高台に建ち、大正9年に建築された住宅です。大理石の玄関や石積風テラス、ステンドグラスなどが優雅な雰囲気を出しており、周辺の景観と調和しています。先の震災により被害を受けたものの、長年にわたる所有者等関係者の尽力により、レストラン・ウエディング施設として再生を行い、貴重な建物を保存活用することに成功しています。



■美津村株式会社（西区見津が丘1丁目）

～水と光を感じる環境的建築～

山に囲まれた緑豊かな産業団地に建つ開放感あふれる社屋です。軽快な屋根や独立壁などの面を際立たせた爽やかな意匠が、背景の山並みに調和しています。水面に映る光を室内に取りこむなど、我が国の伝統とも通じる環境的建築として全体がまとめられています。



市民活動賞

■美しい街岡本協議会の 景観まちづくりの取り組み

（東灘区岡本駅南地区）

～ユニークな活動で美しく楽しいまちに～

昭和57年の設立以来、うるおいと調和のある美しい街岡本を目標に様々な取り組みを行ってきました。協議会の取り組みをマップで表現したサインの設置や、岡本らしい屋外広告物のルールづくりに向けて、写真を使ってまちなみ模型を作成するワークショップを開催するなど、ユニークな活動を展開しています。



まちなみ賞

■竹垣の道

（東灘区御影山手1丁目）

～閑静な住宅街の風情のある小径～

東灘区御影山手地区の閑静な住宅地にある小径です。印象的な竹垣や御影石積などに囲まれた空間が、独特の風情を醸しだし、優れた住宅地景観をなしています。



屋外広告物賞

■DYRE108のサイン

（中央区伊藤町108番地）

～控えめながらも存在感が光るサイン～

旧居留地に建つ商業ビルの屋外広告物です。広告物の素材・形態を厳選し、建物のファサード部分と一体化してデザインする等、建物部分とのバランスがよく取られています。控えめで洗練されたサインが、旧居留地にふさわしい落ち着いた印象を与えています。



（都市計画総局景観室）

平成21年度 小学校総合学習 みちの学校「私たちのまち探検」

こうべまちづくりセンターでは、小学校3・4年生を対象に、総合学習の時間を利用して、自分たちが住むまちに興味をもつきっかけになるよう、「私たちのまち発見」と題した出前授業を行っています。

この取り組みは、神戸市建設局主催の「みちの学校」の一環として行っているもので、それぞれの校区の特色に応じたテーマを設定し、まちの魅力をわかりやすく子ども達に伝えることをねらいとしています。

授業では、自分たちが住むまちの歴史や成り立ち・特色、まちに点在する安全なもの・不思議なものなどを取り上げた「スライド授業」と「まち歩き」を行っています。今年度は10校から応募がありました。

探検地図にシールを貼ったりメモをして




普段見られない所も探検できます




まちづくり協議会、自治会、区観光ボランティア、こうべまちづくり学校卒業生など多くの方々にお手伝いいただいています




クイズで楽しくおさらい!





■6/2 鈴蘭台小学校（北区）3年生



「山の斜面にできたまち」と「山を削ってできたまち」の違い、洪水調整池などの安全施設について学びました。

■11/5 浜山小学校（兵庫区）3年生



地元まちづくり協議会事務局長のお話も交え、区画整理による協働のまちづくりや兵庫運河の歴史を学びました。

■6/9 長田南小学校（長田区）3年生



戦災・震災からの二度にわたる復興区画整理の歩みと長田に集まる様々な交通の昔と今について学びました。

■11/26 宮本小学校（中央区）3・4年生



筒井八幡神社や旧西国街道、神戸臨港線跡プロムナードなどにまつわる不思議をスライドとまち歩きで学びました。

■9/18 桜の宮小学校（北区）3・4年生



坂のまち北鈴蘭台の成り立ちや有馬街道・神戸電鉄について学んだ後、小部峠にある宝篋(きょう)印塔を訪ねました。

■1/22 大池小学校（北区）3年生



農村とまちの違いや武庫川流域と加古川流域の分水嶺などを学んだ後、小学校のルーツである多聞寺を訪ねました。

■10/23 多聞南小学校（垂水区）3年生



区観光ボランティアの皆さんからのお話を交えながら、多聞寺を中心とする多聞のまちの成り立ちを学びました。

■1/29 桜が丘小学校（西区）4年生



地元自治会の方から桜が丘の歴史とまちづくりのルールのお話を聞いた後、木津の磨崖仏などを訪ねました。

「まち探検」の企画・運営をお手伝いいただける方 募集中!

こうべまちづくりセンターでは、「みちの学校・私たちのまち発見」をお手伝いしていただける方を募集しています。スライド授業やまち歩きの「企画・資料づくり」「まち歩きのサポート」などに興味のある方はぜひご連絡ください。

問い合わせ先：こうべまちづくりセンター小学校総合学習担当 (Tel. 078-361-4523)

〈震災15年特集〉

阪神・淡路大震災を語り継いで その2

～神戸防災技術者の会 (K-TEC) の活動から～

3. 救出は誰が

倒壊家屋の下敷きになった方が何名であったという正式な記録はありませんが、約35,000名はいたと推定されています。

この方々を誰が救出したのか。その8割以上の人を救出したのは、かろうじて下敷きになることを免れた市民でした。訓練を受けたことも無く、ジャッキもボールも鋸も何の道具も無い中、素手により、あるいはかき集めたロープや自動車のジャッキを使って救出活動を行ったのです。そして建設業者がクレーン車などを持ち寄り、市民に手を貸した例も多くありました。

警察や消防、そして午前10時になって出動要請を受け駆けつけてくれた自衛隊など、訓練を受け、装備を備え、統率された者による救出活動には限りがありました。また、消火活動などを並行して行う必要もあり、警察・消防・自衛隊などが救出した人は全体の2割程度とされています。如何に市民が市民を助けたかと言うことです。私も公務員として直ちに役所に駆けつけなければならぬ身でありながら、隣人を見捨てて行く事も忍びなく、隣や裏の人だけでもと思い始めた救出は1日中続き、近所の人と一緒に10数名を救出しておりました。

狭い空間にジャッキを差し込み頭が入るほどの空間を作り、15時頃にやっと救出でき、「ありがとう」と元気に微笑んでくれた娘さんが3日後に亡くなったと聞いたときは、クラッシュ症候群になったのだろうか、何故もっと早く救出できなかったのかと無念の気持ちで一杯になり、今もその思いは残っています。

梁や柱に挟まれたご主人を近所の人とともに必死に助け出そうとする中、ご主人が迫り来る炎を前に「ありがとう（もう逃げてくれ）」と言いながら、意識のあるまま炎の包まれていった話を、仮設住宅に住まう奥さんが涙ながらに語った時の悲惨な心の内は忘れられません。このような悲しいことが市内のあちらこちらであったのです。また、市民にはトリアージとかクラッシュ症候群などという言葉にはなじみは無く、救出した人を前にして、電話も通じず、道路渋滞のため到着できない救急車をいまや遅しと待つことしか出来なかったのです。

関連死は除き、犠牲になった方々の73%は圧死と窒息死、そして12%は直後に発生した火災による焼死または焼骨として発見された方でした。これらを合

わせた85%の方々は家が倒壊しなければ命を失う事は無かったのです。

当時は、震災直後の15分間に亡くなった方が80%以上で、自衛隊の出動が早くても救出できた人には限りがあったと言われていましたが、15年後の再調査の中で、一刻も早い救出があれば死者数はもっと少なかったとの報告も出ています。姫路から駆けつけてくれた自衛隊の責任者が、処分を覚悟し法を犯してでも出動すべきであったと悔いていると聞きましたし、その後の自然災害ではいち早く自衛隊が出動しているのはこの教訓が活かされているものと考えられます。

皆さんはこのように下敷きになり、悲惨な目にあまり助ける立場になろうと思いませんか。自分や家族が無事であって始めてボランティアな活動が出来るのです。1981年以前に建てられた建物、神戸市民なら覚えやすい「ポートピア81」の時から同じ家にお住まいの方は、健康診断と同様に家の耐震診断を受けて欲しいのです。ほとんどの自治体が無料で実施していますし、耐震補強に対しても助成制度があります。それらを最大限の活用をし、自分の命は自分で守る「自助」の気持ちを強く持っていただきたいのです。

4. 被災者は何処に避難したか

倒壊家屋から救出された人、火災で家を亡くした人、余震による倒壊に怯える人、そして水道・ガス・電気が停止し家では生活出来ない人は何処に避難したのでしょうか。神戸市は、昭和13年・42年に代表される集中豪雨によるがけ崩れ・土石流・河川の氾濫や、台風による高潮被害を度々経験しており、これらに対し軸足を置いた防災計画や避難所の設定を行っていました。今回のような大規模地震への対応は不十分であったと言わざるを得ません。小中学校・園や公共施設を中心に市内全域に避難所を364箇所指定していましたが、それだけでは足りず、健全と思われる建物、例えば裁判所や大学、宗教施設などにも避難し、それでも入りきれない人がグラウンドや公園に溢れました。避難所で夜を過ごした避難者は、ピークの1月18日には22万人を超え、避難所数は同26日には599箇所に達しました。そして8月20日まで7ヶ月におよぶ不自由な避難所生活が始まったのです。

発信！！まちセン研究ネット⑨ 東アジアまちづくり研究会

最近、東アジア地域（日本、台湾、中国など）で、地震をはじめ大きな災害が多発していますが、その復興を通しそれぞれの地域で特色ある「まちづくり」が育ってきています。昨年1月17日、こうした各地の「まちづくり」に関する研究、文献の翻訳、紹介等を通じ、知識の向上、普及あるいは交流を図ろうと、「東アジアまちづくり研究会」を立ちあげました。現在、日本、台湾、中国など9人のメンバーが研究会に参加しています。

研究会は昨年、①台湾八八水害調査（昨年8月発生した台湾南部地域の水害被災地調査）、②四川512震災被災地調査及び交流（汶川県、理県などの少数民族居住地や都江堰市視察、西南民族大学で専門家、学生及び市民を対象とした特別講演会で講演、民間NPOボランティア団体と交流）に参加しました。さらに、今年1月阪神・淡路大震災15年を機に、台湾、四川、中越の被災地から市民を招いて開催された「被災地市民交流会」に実行委員会の一員として参画しました。今後もさまざまな調査や交流を活発に行い、ネットワークを広げていきたいと考えています。



震源地の映秀鎮、記念保存される倒壊した中学校で
西南民族大学趙副院長(左から2人目)、
映秀鎮李副鎮長(右から2人目)と

研究会ホームページ
<http://www.eonet.ne.jp/~eam/>

まちづくり会館 展示のお知らせ

1階オープンギャラリーの予定

期 間	テーマ・内容	主 催 者
3月	(～15日) まちづくり学校展	都市計画総局地域支援室
	(16日～) 美しいまちこうべの推進	市民参画推進局地域力強化推進課

※展示期間が変更になる場合があります。

地階ギャラリーの予定

期 間	テーマ・内容	主 催 者
2月25日(木) ～ 3月2日(火)	第12回遊遊会水彩画展	遊遊会
3月5日(金) ～ 3月9日(火)	ぐるーぶひらの展<油彩>	ぐるーぶひらの
3月12日(金) ～ 3月16日(火)	松尾勇 作陶展<陶芸>	松尾勇
3月18日(木) ～ 3月23日(火)	第42回兵庫倶楽部写真友会写真展	兵庫倶楽部写真友会
3月25日(木) ～ 3月30日(火)	第22回遥洋会油絵展	遥洋会
4月1日(木) ～ 4月6日(火)	水彩・パステル グループ合同展<水彩・パステル>	グループWa
4月8日(木) ～ 4月11日(日)	第5回書友クラブ書道展	書友クラブ
4月15日(木) ～ 4月20日(火)	第55回木曜会作品展<油彩・水彩>	木曜会
4月22日(木) ～ 4月27日(火)	第16回いくた15人展<油彩>	いくた15人会
4月29日(木) ～ 5月4日(火)	埴本勝司個展<油彩・日本画>	埴本勝司

※初日、最終日は展示時間が変更になる場合があります。



こうべまちづくり会館

開館時間：午前10時～午後6時（水曜日休館）
場 所：元町商店街4丁目西端の南側角
地下鉄海岸線「みなと元町駅」西1出口から北へ1分
神戸高速「花隈駅」東口から南へ3分
「西元町」東口から東へ5分
JR・阪神「元町駅」西口から西へ8分
〒650-0022 神戸市中央区元町通4丁目2-14
電話：078-361-4523 FAX：078-361-4546
ホームページ <http://www.kobe-toshi-seibi.or.jp>

コミュニティ相談センター（まちづくり会館4F）

自治会の会報等の印刷サービス、運営等の相談
受付：午前10時～午後6時（水曜日休館）
ただし、印刷は5時まで
電話・FAX：078-361-4565